

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 10 月 12 日	
所属部局・職	野生動物研究センター 博士課程 1 年
氏 名	仲澤 伸子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
日本モンキーセンター
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
博物館実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 10 月 6 日 ~ 平成 26 年 10 月 9 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
日本モンキーセンター
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
10月6日から9日まで日本モンキーセンターでの博物館実習に参加した。日本モンキーセンターは1956年に設立された、動物園の中では日本で唯一の登録博物館である。
6日 伊谷園長から説明を受け、その後綿貫さんに園内を案内していただいた。
7日 ゴリラとマンドリルの飼育場を掃除したのち、カニクイザルの解剖を観察した。学部生の時の実習で、解剖し筋肉と骨をスケッチしたことはあったが、脳を見たことは無かったのでとても興味深かった。午後は骨標本を部位ごとに分ける作業を行ったのち、保管されている標本を見せていただき、標本の適切な作成方法と保管方法は標本となる生き物ごとに異なることを学んだ。最後に液浸標本のホルマリン交換を行った。
8日 キュレーターの方々から、動物園の博物館としての役割、博物館に保管される資料、フィールドワーカーとしての現地での保全活動、そして動物福祉のためのエンリッチメントとその評価方法についての講義を受けた。その後、フィーダー作成を行った。両側が節で閉じられた細い竹筒の側面に穴をあけ果物を詰めたものを、一回り大きく節を両方とった竹にはめ、間に乾草やペレットをつめた。細い竹が太い竹から抜けないよう、両端をパンやサツマイモで詰め固定した。 実際にアカゲザルのケージに入れてくださったところ、初めのうちはパンやサツマイモをとろうとしていたが、全て食べ終わって乾草が出てきた途端に投げ捨てられ、細い竹筒内が太い竹筒から外されるところまでいかず、その後観察中は見向きもされなかった。目に見える(または見えなくても入っていると期待の持てる)、より好物の食べ物から食べている印象を受けた。また、自身の作成したものよりも、両面が節で閉じられた竹筒の側面に穴をあけ、中に果物を詰めるというシンプルなものの方が、「果物が見えているのに出にくい」「見えないけどまだ入っているかもしれない」という状況からか、より長く執着しているように感じた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



《フィーダーを作成する》



《持ったまま移動する》

9日

小学生へのレクチャーを聴いた後、質疑応答に参加させていただいた。小学生は興味を持てば素直に反応を返してくれるが、興味を失うのも早い。モンキーセンターの方々ほどなたもとてもしゃべり方が丁寧で、身振りを交え、時には実際に小学生に体を使ってもらい、常に小学生の興味を引いていたのが素晴らしかった。また、質疑応答について相談させていただいている時の会話で、小学生に対しての講義なので易しい言葉を使わなければいけないが、不適切な言葉は使わないよう注意されていることも分かった。

また、来園者調査も行った。

わたしはニシローランドゴリラの檻の前で来園者を観察した。素通りも多いのではないかと考えていたが、思いのほかお客さんはちゃんと立ち止まり、説明書きも読んでいた(ただし一度2人組がマンドリルの檻の前を素通りしてゴリラを見に来たこともあったので、単にゴリラだから立ち止まったのかもしれない)。また、餌をまいた室内にゴリラを入れた際のお客さんの反応も観察した。このときの反応はそれぞれでとても興味深かった。白菜を一枚一枚むいて食べる動作に「賢い」と言う方、また、ゴリラが座って食べるのを見て、子どもに対して教育的な発言をする方、どの順番で食べるのかずっと観察する方、「大きいね」という方は多かったが、ゴリラが近くに来ると子どもに「怖いね」と言う方もいた。

母親と子どもが見に来た時には、母親が「ゴリラのお母さん」と言っており(実際にはオス)、子どもが「お母さんじゃないよ」と反論していた。それでも母親が訂正しないので、子どもが説明書きを見に行き、戻ってきて「タローって言ってね、オスでね、リンゴが好きなんだよ」と報告するのを聞いた。その後は母親も

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

直し、最後には自身も説明書きを読んで去って行った。その後実際に説明書きを読んだところその通りの情報が簡潔に書かれていた。こどもにも分かるように工夫されているのだなと感じた。こどもの目線の位置に、こどもでも読める、理解できる情報が書いてあることで、親子の会話につながり、親の興味を引き出すことにつながることもあるのではないだろうかと感じた。

お客さんが動物や説明書にどのような反応を示すのかに注意したことは無かったので、とてもよい経験ができたと思う。

6. その他 (特記事項など)

実習の期間中、モンキーセンターの方々に大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。